

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9228	大正12年	夏の部	父も母も牡丹散りしを知らざりき	牡丹	植物
9229	大正12年	夏の部	喪に居りて庭樹のしげり怖ろしき	茂り	植物
9230	大正12年	夏の部	このいちごの香よ色よ徒に腐りゆく	苺	植物
9231	大正12年	夏の部	汝に告ぐ豌豆の花白かりし	豌豆の花	植物
9234	大正12年	夏の部	煩惱の手に掃ひけり夏のつゆ	夏の露	天文
9373	大正13年	夏の部	朝戸開く童女に牡丹ゆらぎけり	牡丹	植物
9374	大正13年	夏の部	菖蒲蓬軒に炊烟颯りけり	菖蒲	植物
9375	大正13年	夏の部	弟兄のきそひ引來る菖蒲かな	菖蒲	植物
9376	大正13年	夏の部	桐の花水に流るゝ嵐かな	桐の花	植物
9377	大正13年	夏の部	豁うなる空に吹入る青嵐	青嵐	天文
9378	大正13年	夏の部	青梅や毛虫及ばぬ斜一枝	梅の實	植物
9379	大正13年	夏の部	雨冷えや若葉にこもる禽の声	若葉	植物
9380	大正13年	夏の部	山鳩の二ツ飛び立つ若葉哉	若葉	植物
9381	大正13年	夏の部	谷川の橋危きに若葉哉	若葉	植物
9382	大正13年	夏の部	曼多羅に若葉耀く日尊き	若葉	植物
9383	大正13年	夏の部	網打てバ底くゞる魚や淵若葉	若葉	植物
9384	大正13年	夏の部	澗水の底明りする若葉哉	若葉	植物
9385	大正13年	夏の部	若葉山人住みて麦黄む也	若葉	植物
9386	大正13年	夏の部	神宮の木々の若葉やまのあたり	若葉	植物
9387	大正13年	夏の部	日に雨に若葉悲しく潔し	若葉	植物
9388	大正13年	夏の部	若葉風馬に飲ふ両三騎	若葉	植物
9389	大正13年	夏の部	青梅に訪來る人の帽古き	梅の實	植物
9390	大正13年	夏の部	青梅や賓客と踏む庭の苔	梅の實	植物
9391	大正13年	夏の部	青梅や俄に曇る麓村	梅の實	植物
9392	大正13年	夏の部	青梅や机に通ふ朝嵐	梅の實	植物
9393	大正13年	夏の部	青梅や錢弄ぶ童達	梅の實	植物
9394	大正13年	夏の部	青梅や遺稿を寫し了る頃	梅の實	植物
9395	大正13年	夏の部	青梅を後ろに窯の火を見居り	梅の實	植物
9396	大正13年	夏の部	青梅に陶やく窯の焰かな	梅の實	植物
9397	大正13年	夏の部	夏草にひた押寄する出水哉	夏草	植物
9398	大正13年	夏の部	夏草に蹄ぬれ來る子馬かな	夏草	植物
9399	大正13年	夏の部	夏草に支ふものなき奔馬哉	夏草	植物
9400	大正13年	夏の部	喜雨亭の跡夏草の葉廣草	夏草	植物
9401	大正13年	夏の部	蛇のゐる夏草薙ぎて進みけり	夏草	植物
9402	大正13年	夏の部	桑の実に薄暑の人の憩ひけり	薄暑	時候
9403	大正13年	夏の部	よき水の想出にみつ薄暑人	薄暑	時候
9404	大正13年	夏の部	著飾りて薄暑行く也緑の野	薄暑	時候
9405	大正13年	夏の部	薄暑來て山人と會ふ湖の人	薄暑	時候
9406	大正13年	夏の部	一路平安薄暑の草に笠を置く	薄暑	時候
9407	大正13年	夏の部	蠅つりて二三子去りぬ芭蕉庵	蚊帳	人事
9408	大正13年	夏の部	語りつきてかたふく月に蠅つりぬ	蚊帳	人事
9409	大正13年	夏の部	蠅つりて座る所も無かりけり	蚊帳	人事
9411	大正13年	夏の部	熱くなき涼しくもなき國とかや	涼し	時候
9560	大正14年	夏の部	石に彫りし我が句の魂か閑古鳥	閑古鳥	動物
9561	大正14年	夏の部	野路ゆけバ雲むれ去るや茨の花	茨の花	植物
9562	大正14年	夏の部	館址の茂りを醜し大河あり	茂り	植物
9563	大正14年	夏の部	明易き大河の橋を渡り去る	短夜	時候
9564	大正14年	夏の部	つゆ雲に濕ふや我が旅衣	梅雨雲	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9565	大正14年	夏の部	蛍一つ句碑のあたりを飛去らず	蛍	動物
9566	大正14年	夏の部	神木を放れて蛍一ツ哉	蛍	動物
9567	大正14年	夏の部	老憂しや暁方の蛍見て	蛍	動物
9568	大正14年	夏の部	羽搏ちくる火蛾や木鳴らす夜嵐に	蛾	動物
9569	大正14年	夏の部	執著や二ツ相搏つ灯取虫	灯取蟲	動物
9570	大正14年	夏の部	灯の虫のむくろを棄てつ露涼し	夏の露	天文
9571	大正14年	夏の部	火蛾悲し尸を曬す古經卷	蛾	動物
9572	大正14年	夏の部	水盤を海と浮びつ灯取虫	灯取蟲	動物
9573	大正14年	夏の部	男沼女沼水草の花黄に白に	水草の花	植物
9574	大正14年	夏の部	萍の花撲つ雨を喜びぬ	萍	植物
9575	大正14年	夏の部	眞菰すく / \ 萍の花平ら也	萍	植物
9576	大正14年	夏の部	水草の花咲いて水の魔を封ず	水草の花	植物
9577	大正14年	夏の部	水草の花の盛りを禊かな	水草の花	植物
9579	大正14年	夏の部	禮佛や堂を下れば瓜の花	瓜の花	植物
9580	大正14年	夏の部	雨急也茂の中の朴廣葉	茂り	植物
9581	大正14年	夏の部	山寺の石を潤ほしよだち過ぐ	夜立ち	天文
9582	大正14年	夏の部	帽軽き帰省の子らよ瓜の花	瓜の花	植物
9583	大正14年	夏の部	繭干して小家山雨に襲はるゝ	繭	人事
9584	大正14年	夏の部	一木の白花こぼるゝ茂かな	茂り	植物
9585	大正14年	夏の部	河鹿棲む水を湛へて茂哉	茂り	植物
9586	大正14年	夏の部	繭賣りて淋しき灯かゝげけり	繭	人事
9587	大正14年	夏の部	貧しさはよき繭盛りぬ古筐	繭	人事
9589	大正14年	夏の部	朗らかに晴開けバ夏樹哉	新樹	植物
9741	大正15年	夏の部	うつ木咲く鄙に讀むべき歌書もなし	卯の花	植物
9742	大正15年	夏の部	うの花の垣並めて祭休み哉	卯の花	植物
9743	大正15年	夏の部	水鳴るは闇の垣根やうつ木咲く	卯の花	植物
9744	大正15年	夏の部	したゝかな露の一朝うつ木咲く	卯の花	植物
9746	大正15年	夏の部	吾棲みて舊りぬる軒や菖蒲葺く	菖蒲葺	人事
9748	大正15年	夏の部	來し方や道一筋の花卯木	卯の花	植物
9749	大正15年	夏の部	推敲の觀瀾記事や心太	心太	人事
9750	大正15年	夏の部	百里來て交を結ぶ心太	心太	人事
9751	大正15年	夏の部	貧しかれど娘ハ賣らじ心太	心太	人事
9752	大正15年	夏の部	月山の雪汗すゝれ心太	心太	人事
9754	大正15年	夏の部	心太さそくのあるじまうけ哉	心太	人事
9756	大正15年	夏の部	新樹道をてらして泉近づけり	新樹	植物
9757	大正15年	夏の部	硯石風に潤ふ新樹かな	新樹	植物
9758	大正15年	夏の部	賀の筵新樹に扇ひらめかす	新樹	植物
9759	大正15年	夏の部	酒微醺に入り新樹光あり	新樹	植物
9761	大正15年	夏の部	鮎もくれて儕故し百合花	百合	植物
9762	大正15年	夏の部	座右の物茶經三卷籠枕	籠枕	人事
9763	大正15年	夏の部	莊周が夢の行方や籠枕	籠枕	人事
9764	大正15年	夏の部	竹夫人廬山の雨を含みけり	竹夫人	人事
9765	大正15年	夏の部	抱箆の夢や青海原の上	竹夫人	人事
9766	大正15年	夏の部	抱箆や碧紗を隔つ夜の空	竹夫人	人事
9768	大正15年	夏の部	鳶も魚も處に在りてつゆ曇	梅雨雲	天文
9770	大正15年	夏の部	夏山に虎溪と名づけ廬せり	夏山	地理
9771	大正15年	夏の部	夏山の何れにか在る氷室守	夏山	地理
9772	大正15年	夏の部	夏山や山守もなき流レ水	夏山	地理

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9773	大正15年	夏の部	夏山に人を導く日午也	夏山	地理
9774	大正15年	夏の部	夏山に誰ぞ廬して衣干す	夏山	地理
9775	大正15年	夏の部	夏山の霞を吸ひて嘶ふ馬	夏山	地理
9776	大正15年	夏の部	蚊火焚くと主人出て行く宵闇よ	蚊遣	人事
9777	大正15年	夏の部	賓人と大に笑ふ蚊やり哉	蚊遣	人事
9778	大正15年	夏の部	蚊火すてゝ主人嘯き去にけり	蚊遣	人事
9779	大正15年	夏の部	蚊火けふるあたりに吾を待つらんぞ	蚊遣	人事
9780	大正15年	夏の部	古軒に釣竿かゝる蚊遣哉	蚊遣	人事
9781	大正15年	夏の部	魚籃あけて少き魚や蚊やり草	蚊遣	人事
9783	大正15年	夏の部	撫子や濃かれと灌ぐ花の色	撫子	植物
9784	大正15年	夏の部	蚊火けふり主人が姿かくれけり	蚊遣	人事
9786	大正15年	夏の部	瓜茄子の徳を修めんとぞ思ふ	雑	雑
9788	大正15年	夏の部	三尺の庭に玉たり墓	墓	動物
9789	大正15年	夏の部	南天の花踏んで墓出にけり	墓	動物
9790	大正15年	夏の部	墓出てゝ主人やうやく酔來る	墓	動物
9791	大正15年	夏の部	茗荷林を浪々の身や墓	墓	動物
9792	大正15年	夏の部	萩早く苔みて墓の名残哉	墓	動物
9793	大正15年	夏の部	杯を啣みて墓と相見たる	墓	動物
9794	大正15年	夏の部	百合の丈の高くもあるか墓	墓	動物
9795	大正15年	夏の部	鱗を獲て絶ちし筆はや墓	墓	動物
9796	大正15年	夏の部	闇の中に残りぬ墓と庭石と	墓	動物
10046	昭和2年	夏の部	高木渡る風や幟の吹流し	鯉幟	人事
10047	昭和2年	夏の部	幟白し眞田が跡の一郭	幟	人事
10048	昭和2年	夏の部	蕃山の葉山の中の幟哉	幟	人事
10049	昭和2年	夏の部	幟吹くや水の流の朝嵐	幟	人事
10050	昭和2年	夏の部	幟立つや五日の空の深みどり	幟	人事
10052	昭和2年	夏の部	卯の花を詠じて迎へ給ふらむ	卯の花	植物
10055	昭和2年	夏の部	琵琶罷んで皆春惜む人ばかり	春惜む	時候
10057	昭和2年	夏の部	深山鳥羽耀かす五月晴	五月晴	天文
10058	昭和2年	夏の部	裏山や五月晴して朴高木	五月晴	天文
10059	昭和2年	夏の部	五月晴水を隔つる翠微哉	五月晴	天文
10060	昭和2年	夏の部	五月晴翠微に颯る烟哉	五月晴	天文
10061	昭和2年	夏の部	海の如く野ハ緑なり五月晴	五月晴	天文
10062	昭和2年	夏の部	鳥めかす枝の雀や五月晴	五月晴	天文
10063	昭和2年	夏の部	故郷は花なき草の茂哉	草茂る	植物
10064	昭和2年	夏の部	草茂る中の笕や山の水	草茂る	植物
10065	昭和2年	夏の部	山水の流れて白し五月晴	五月晴	天文
10066	昭和2年	夏の部	古道を行けば家なし草茂る	草茂る	植物
10068	昭和2年	夏の部	藤の花虚空高きに揺ぐ哉	藤の花	植物
10070	昭和2年	夏の部	青嵐嵯峨の話のつきなくに	青嵐	天文
10071	昭和2年	夏の部	與に見る保津川石や子規	時鳥	動物
10073	昭和2年	夏の部	六月の鶯を道の枝折哉	六月	時候
10074	昭和2年	夏の部	山に上る僧俗二人夏の露	夏の露	天文
10075	昭和2年	夏の部	木いちごに靄の痕見つ閑話頭	木苺	植物
10077	昭和2年	夏の部	繭かきの一人に蝶や近く來る	繭	人事
10078	昭和2年	夏の部	繭かきの額の汗や唐葵	繭	人事
10080	昭和2年	夏の部	諸悪莫作鼻高ながら墓	墓	動物
10082	昭和2年	夏の部	はしきやし雀子は巢に籠りゐる	雀の子	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10084	昭和2年	夏の部	易へずあらむ宵々蚊火の置所	蚊遣	人事
10086	昭和2年	夏の部	八重垣に濃緑菖蒲匂ひけむ	菖蒲	植物
10087	昭和2年	夏の部	三笑の聲聴知らむ蝸牛	蝸牛	動物
10088	昭和2年	夏の部	金泥の文字見ぬ久し蝸牛	蝸牛	動物
10089	昭和2年	夏の部	でゝむしや角の上なる寂しをり	蝸牛	動物
10090	昭和2年	夏の部	紫陽花の露を喰ひぬ蝸牛	蝸牛	動物
10091	昭和2年	夏の部	金泥の書に近づかずかたつぶり	蝸牛	動物
10092	昭和2年	夏の部	蝸牛兵火を遁れこゝに在り	蝸牛	動物
10093	昭和2年	夏の部	病葉や梢に見たる梅小粒	病葉	植物
10094	昭和2年	夏の部	病葉のちり / \ 早つゞくらし	病葉	植物
10095	昭和2年	夏の部	病葉に何喧すし群雀	病葉	植物
10096	昭和2年	夏の部	病葉のちりからびたり苔の上	病葉	植物
10097	昭和2年	夏の部	病葉や人を夢みる紅閨裡	病葉	植物
10098	昭和2年	夏の部	かまびすく病葉落す群雀	病葉	植物
10100	昭和2年	夏の部	蓬萊の香ぐの果も簞	簞	人事
10102	昭和2年	夏の部	あらがねの土を離れて瓜の花	瓜の花	植物
10103	昭和2年	夏の部	瀧水に葛の葉ぬれて眞夏なる	滝	地理
10104	昭和2年	夏の部	淙々と瀧壺浅し蟬の聲	滝	地理
10105	昭和2年	夏の部	瀧を觀る良久し手に夏蕨	滝	地理
10106	昭和2年	夏の部	蕃山に道失へり瀧の音	滝	地理
10107	昭和2年	夏の部	滝の末かちわたりせむ葛の花	滝	地理
10409	昭和3年	夏の部	薰風や貢の禽の餌につく	薰風	天文
10410	昭和3年	夏の部	白鷗ハ籠に返らず風かほる	薰風	天文
10411	昭和3年	夏の部	薰風や雫は潜む苔の中	薰風	天文
10412	昭和3年	夏の部	薰風に長途の笠や羽黒山	薰風	天文
10413	昭和3年	夏の部	薰風や驛路すぐる鈴の聲	薰風	天文
10415	昭和3年	夏の部	短夜の心あまりて鳴く蛙	短夜	時候
10416	昭和3年	夏の部	魚棲まぬ水の深さよ青嵐	青嵐	天文
10417	昭和3年	夏の部	閑古鳥幾たび影を醜しけむ	閑古鳥	動物
10418	昭和3年	夏の部	岩に巢ふ小禽何々苔の花	苔の花	植物
10419	昭和3年	夏の部	六月や岩に花咲く晝の露	六月	時候
10420	昭和3年	夏の部	流るゝは鳥の古巢か青嵐	青嵐	天文
10421	昭和3年	夏の部	夕立雲裂けて碎けて岩孤ツ	夕立	天文
10422	昭和3年	夏の部	夏雲と孰れ傾く岩穂かな	夏の雲	天文
10423	昭和3年	夏の部	常盤木の落葉もたぎち流れけり	常盤木落葉	植物
10425	昭和3年	夏の部	城址の近きに家す青すたれ	青簾	人事
10426	昭和3年	夏の部	よき水に立寄る人や青簾	青簾	人事
10427	昭和3年	夏の部	岩せまる谿に家しつ青簾	青簾	人事
10429	昭和3年	夏の部	庭を見て未だ帰らず青簾	青簾	人事
10430	昭和3年	夏の部	薰風や兜を祀る杉の中	薰風	天文
10431	昭和3年	夏の部	指し示す杉のあはひや古清水	清水	地理
10432	昭和3年	夏の部	利き鈍き鍬埋れて草清水	清水	地理
10433	昭和3年	夏の部	水を戀ひて啼くらむ鳥ぞ早苗取	早苗取	人事
10434	昭和3年	夏の部	睡蓮や逕は曲る豎穴へ	睡蓮	植物
10436	昭和3年	夏の部	蚊帳の夢きのふの山の翠かな	蚊帳	人事
10437	昭和3年	夏の部	山水を脱却したり明易き	短夜	時候
10438	昭和3年	夏の部	物賣ハ鮎にかあらむ釣忍	釣忍	人事
10439	昭和3年	夏の部	戸をさゝで獨となりぬ釣忍	釣忍	人事

夏の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10440	昭和3年	夏の部	逢はぬ戀にすりけむ昔忍草	忍草	植物
10441	昭和3年	夏の部	たぎつ瀬に垂れつ乱れつ忍草	忍草	植物
10442	昭和3年	夏の部	石女やつりて久しき忍草	釣忍	人事
10444	昭和3年	夏の部	畚の土胡瓜の花に振りこぼす	瓜の花	植物
10446	昭和3年	夏の部	露涼し夜と別るゝ花の様	夏の露	天文
10448	昭和3年	夏の部	水近き潤ひ芭蕉巻葉哉	芭蕉玉巻	植物
10449	昭和3年	夏の部	日中や地に梅干の壺一ツ	梅干す	人事
10450	昭和3年	夏の部	枝に在りしきのふの梅を漬にけり	梅干す	人事
10452	昭和3年	夏の部	吾が思ふ方へ靡けり女郎花	女郎花	植物
10453	昭和3年	夏の部	蓮の實の飛ぶと知りたる賢さよ	蓮實飛ぶ	植物
10454	昭和3年	夏の部	海に入って鯉に近づく雀かな	雀蛤となる	動物
10456	昭和3年	夏の部	句は知らず古人幾夜の火取蟲	灯取蟲	動物
10460	昭和3年	夏の部	夏草を踏みしだき來て獨なる	夏草	植物
10461	昭和3年	夏の部	百合挿して手桶重げに運び出づ	百合	植物
10462	昭和3年	夏の部	古妻の手桶重げに百合の花	百合	植物
10464	昭和3年	夏の部	葉よれ草祈雨の修法の水はじく	雨乞	人事
10465	昭和3年	夏の部	雨乞や涙をつづるのりとごと	雨乞	人事
10466	昭和3年	夏の部	雨乞に草木鳴を鎮めたり	雨乞	人事
10467	昭和3年	夏の部	雨乞に上る裾野の小家より	雨乞	人事
10468	昭和3年	夏の部	雨乞に行くや埴生の小屋を出て	雨乞	人事
10469	昭和3年	夏の部	雨乞に根々の神の名呼び申す	雨乞	人事
10471	昭和3年	夏の部	羅や王母が袖にかくすもの	羅	人事
10597	不詳	夏の部	松のこと雲のこと其の時鳥	時鳥	動物
10608	不詳	夏の部	斯の道の末枯瓜に水灌げ	末枯瓜	植物